

発行 日本共産党南知多支部



連絡先
〒470-3321 南知多町
内海内塩田77-3
(南知多町議会議員)
内田 保
電話 0569-62-1816
携帯 090-2776-7529

内田たもつだより

内田たもつ ホームページ
http://uchida-tamotsu.jimdo.com



日本共産党発行
しん 赤旗
日刊 3497円
日曜版 930円

「新しい戦前」にしないために

昨年12月28日放送の『徹子の部屋』（テレビ朝日）で黒柳徹子さんから「来年（2023年）はどんな年になるでしょう」と訊かれて、少し間をおいてタモリさんは「新しい戦前になるんじゃないでしょうか」と答えたのです。ネットでは、岸田総理が打ち出した防衛費の増額や敵基地攻撃能力をめぐる議論を引き合いに出し、戦争に前のめりになっている日本を危惧しているのではないかと、意見が相次ぎました。

このような真実状況の中、5月13日に戦争体験者でもある日本福祉大学の名誉教授の福岡猛志さんによる「戦時歌謡と替え歌」、21日には「半田空襲と戦争を記録する会」代表の佐藤明夫さんの「洗脳された軍国少年〜私の戦争体験〜」の講演が半田でありました。その内容から、今回は、戦争と平和について考えます。

戦時歌謡と替え歌…「勝つてくぞ」から「海行かば」まで

「半田空襲と戦争を記録する会」主催で1938年生まれの福岡猛志さんが平和への願いをこめて話されました。

戦時（軍国）歌謡は、民衆を軍国主義に洗脳し、鼓舞し、侵略戦争推進に参加させるための重要な手段として利用されました。しかし、一部のしたたかな市民は、替え歌で権力を風刺し、戦争政策に抵抗しました。

参加者からは、「軍歌はカラオケなどで懐かし〜ついでに口ずさんでしま〜」「戦死した家族、親戚の者も歌ついで

て、思い出す」「私は軍歌は絶対に歌いたくない」「戦意高揚に使われたが、軍歌をつくらした人の戦争責任はどなたのか」などの声がありました。福岡さんは「戦争責任をとった人はほとんどいないと思うが、一度と歌をつくらなかつた人や逆に戦後平和の歌を沢山つくった人もいます」と答えました。



庶民が風刺した戦時歌謡・軍歌

湖畔の宿

- 1 昨日生れたブタの子が
ハチに刺されて名誉の戦死
ブタの遺骨はいつ帰る
昨日の夜の朝帰る
ブタの母ちゃん悲しがる
2 昨日生れたハチの子が
ブタに踏まれて名誉の戦死
ハチの遺骨はいつ帰る
8月8日の朝帰る
ハチの母ちゃん悲しがる
3 昨日生れたタコの子が
タマにあたって名誉の戦死
タコの遺骨はいつ帰る
骨がないから帰れない
タコの母ちゃん悲しがる

露営の歌

- 1 負けて来るぞと勇ましく
誓って国を出たからは
手柄なんぞは知るものか
退却ラッパ聞くたびに
どンドン逃げ出す勇ましく
2 勝ってくるぞと勇ましく
誓って国を出たからは
手柄立てずに支那料理
進軍ラッパ聞くたびに
まぶたに浮かぶ支那料理

洗脳された軍国少年〜私の戦争体験〜



篠島海岸

〈川柳コーナー〉

戦時中軍歌風刺のしたたかさ
今回、南知多町とも関わりの深い日本福祉大学付属高校の校長でもあった85才の福岡猛志先生が、戦時中、庶民が沢山の軍歌を替え歌にして歌っていたことを紹介されました。戦争を風刺し、聞かれたら捕まるかもしれない内容で歌っていたという民のしたたかさに胸のすく思いがしました。

21日に、「9条を守る会・はんだ」の総会で講演があり、元半田高校の教師で、現在「半田空襲と戦争を記録する会」代表の佐藤明夫さんが自分の戦争体験を話されました。佐藤明夫さんは、1930年生まれの92歳。
・1939年、郡上八幡小学校3年の時の兵士への慰問文「へいたいさん元気ですか、ぼくはラッパやしんぶんて兵隊さんがわるい支那兵をやっつけて下さると思ふと、ほんとうにありがとうといはずにおれません。こないだは漢口を落とすてくださった時、むねがすーっとしました」子どもたちが書いたものに兵隊はとも勇気づけられていた。子どもたちも中国侵略に加担していた。今のロシアの子どもたちが重なるものであると思う。
・1942年から国民学校になった。集団行動が多くなり、上級生から下級生への号令と服従の道徳中心の学校となった。集団行動・号令・命令・敬礼・行進・神社参拝。
・町内の6年から1年まで集まって、6年生が集団の号令をかける。下級生に対して命令をすることがいやで仕方なかった。そのために、昭和17年4月不登校になった。仮病だが、親はよく分かってくれた。休学し山の近い公園でアルプス

をみたり、本を読んだり、虫をみたりしてのんびりと1年をすごした。しかし、このままではついていけないと自分自身を洗脳し、2度目の6年生は、様変わりして命令をするロボットの6年生になった。それ以後は、考えてはいけない、さからってはいけない、すべて命令で動こうとする人間になった。
・1945年8月15日、正午の放送で負けたことがわかった。くやくやくやくして「残念無念この仇は必ず取るぞ」軍国少年には母親の笑顔が理解できなかつた。
・1946年から中学3年の時に修身がなくなり、討論学習になった。軍備はもつべきか、天皇制は廃止すべきか。男女平等はどうか。二つに分かれて話し合う。自分の頭で考えることはこういうことかということが分かった。戦争中自分で自分をロボットにした怒りを感じた。自由を獲得し、9条を私たちがつくった。これを守り生かすために行動する力が大切である。
とつとつと話される言葉には力がもつていました。佐藤さんの体験は、「ロボットになったあきおくん」という絵本になっています。

